※令和４年度以降入学生用

学校番号	325

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	公共	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	公共　（東京法令出版）						
副教材等	フォーラム公共 2026（東京法令出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「公共」は「社会的な見方・考え方」を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、公民としての資質・能力を育成することを目指します。
授業は、講義を中心にアクティブラーニングを加味して進める予定です。講義の部分では、初めて聞くことに素直に感動してください。アクティブラーニングでは、しっかり自分の考えを持ち、それを表現しましょう。

2　学習の到達目標

(1)考察・選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解します。また、諸資料から、必要な情報を調べてまとめる技能を身に付けます。
(2)現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、構想したことを議論する力を養います。
(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養います。また、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めます。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	考察・選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料から、必要な情報を調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第１編「公共」のをらたくひ扉めに」	「公共」の見取り図	a：選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論、重要な視点である、幸福・自由・正義・公正を把握している。 b：以後の学習において、幸福・自由・正義・公正の視点を用いて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：以後の学習において、幸福・自由・正義・公正の視点を積極的に活用し、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ノート	授業ノート レポート 課題 授業観察
	第１章「公的空をく私共な間つるたち」	①社会のなかの私たち ②日本の文化と社会 ③青年期とは ④自己形成の課題 ⑤ライフ・キャリアの形成 ⑥社会の多様性 ⑦宗教と文化	a：自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であることを理解している。 伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリ	定期考査	定期考査 授業ノート	授業ノート レポート 課題 授業観察

※令和４年度以降入学生用

			ア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 b：社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 c：自分自身が、公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることについての、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。		授業ノート	授業ノート レポート 課題 授業観察
	第２章「公的空間における人としてあり・生き方」	①幸福とは ②自由とは ③正義とは ④公正とは	a：選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 b：　倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 c：他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方についての、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている	定期考査	定期考査	

※令和４年度以降入学生用

	第３章「公的空間における基本原理と日本国憲法」	①人間の尊厳と平等 ②民主政治と国民主権 ③消極的自由と公共の福祉 ④積極的自由と義務 ⑤法の支配と人権保障 ⑥平和主義	a：各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 b：公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 c：個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など日本国憲法の基礎にある考え方についての、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
	第２編「よりよい社会の形成に参画するために」	「政治」の見取り図	a:選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論、重要な視点である、個人の尊重・法の支配・立憲主義・民主主義・権力分立を把握している。 b：以後の学習において、個人の尊重・法の支配・立憲主義・民主主義・権力分立の視点を用いて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：以後の学習において、個人の尊重・法の支配・立憲主義・民主主義・権力分立の視点を積極的に活用し、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察

※令和４年度以降入学生用

	第１章「日本の政治機構と政治参加」	①法の機能と限界 ②国会の運営と権限 ③内閣と行政の民主化 ④世界の政治体制 ⑤裁判所と人権保障 ⑥私たちと裁判 ⑦地方自治のしくみ ⑧選挙のしくみと課題 ⑨政党政治 ⑩国民と政治参加	a:法や規範の意義及び役割について理解している。 国会・内閣の機能と役割や関係性について理解している。 世界の政治体制とそれぞれの特徴について理解している。 裁判所の機能と役割、人権を保障するためのしくみについて理解している。 司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。 地方自治、政治参加と公正な世論の形成などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。 b: 日本の政治機構と政治参加について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
2		「経済」の見取り図	a:選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論、重要な視点である、希少性・トレードオフ・機会費用・効率性・持続可能性・公平性・ルール・分業・イノベーション・信用創造を把握している。 b:希少性・トレードオフ・機会費用・効率性・持続可能性・公平性・ルール・分業・イノベーション・信用創造の視点を用いて、多面的・多角的に考察し、表現できる。 c:希少性・トレードオフ・機会費用・効率性・持続可能性・公平性・ルール・分業・イノベーション・信用創造の視点を積極的に活用し、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察

※令和４年度以降入学生用

	第２章「経済のしくみ」	①経済活動と私たちの生活 ②市場のしくみ ③市場の失敗 ④現代の企業 ⑤国民所得 ⑥景気変動と物価の動き ⑦財政の役割 ⑧財政の課題 ⑨金融のしくみと働き ⑩中央銀行と金融の自由化	a:経済活動と経済主体、市場経済の機能と限界について理解している。 現代の企業の在り方と課題を理解している。 国民所得などの指標、景気変動と物価の動きについて理解している。 現実社会の事柄や課題を理解している。 b:経済活動に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。 ｃ:よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
	第３章「変化する日本経済」	①戦後復興から高度経済成長へ ②安定成長からバブル経済へ ③バブル後の日本経済 ④日本の中小企業 ⑤日本の農業問題 ⑥公害の防止と環境保全 ⑦エネルギーと循環型社会	a:戦後の日本経済の推移などに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 日本経済の諸課題について、政府は法律の制定や政策の実施によって、課題解決に向けてどのような役割を果たしているか理解している。 b:日本経済に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。 c:よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察
	第４章「豊かな生活の実現」	①私たちの生活と契約 ②消費者主権 ③労働者の権利 ④現代の雇用・労働問題 ⑤社会保障の役割 ⑥社会保障制度の課題	a:多様な契約及び消費者の権利と責任などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。 b:消費生活、労働問題、社会保障に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。 c:よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察

※令和４年度以降入学生用

		「国際」の見取り図	a:選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論、重要な視点である、国際化・グローバル化を把握している。 b:以後の学習において、国際化・グローバル化の視点を用いて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:以後の学習において、国際化・グローバル化の視点を積極的に活用し、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ノート	授業ノート レポート 課題 授業観察
3	第５章「国際政治のしくみと動向」	①国家主権と国際法 ②人権保障の広がり ③国際連合の役割と課題 ④第二次世界大戦後の国際社会 ⑤冷戦終結後の国際社会 ⑥人種・民族・難民問題 ⑦核兵器の廃絶と国際平和 ⑧日本の安全保障の現状	a:国家主権、領土などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。 人権保障が世界でどのように広がってきたのか理解している。 国際連合の役割と課題について理解している。 第二次世界大戦後の国際社会の動向、冷戦終結後の国際社会の変容について理解している。 人種・民族・難民問題などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。 核兵器の廃絶などの軍縮、国際平和に向けた世界の取り組みについて理解している。 我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。 b:国際政治に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。 c:よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めている。	定期考査	定期考査 授業ノート	授業ノート レポート 課題 授業観察

※令和４年度以降入学生用

	第6章「国際経済のしくみと動向」	①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みと変化 ④グローバル化する経済	a:貿易と国際分業、外国為替のしくみと国際収支について理解している。 戦後国際経済の枠組みとその変化について理解している。 経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。 b:国際経済に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。 c:よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ノート	授業ノート レポート 課題 授業観察
	第7章「国際社会の現状と課題」	①地域統合の進展 ②南北問題 ③新興市場国 ④地球規模の諸課題 ⑤地球環境問題 ⑥日本の役割	a:EU や USMCA などの地域統合の進展などに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 南北問題や新興市場国などの国家間格差などに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 地球環境問題をはじめとする地球規模の諸課題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 b:国際社会に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。 c:よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ノート	授業ノート レポート 課題 授業観察

※令和４年度以降入学生用

	第3編「持続可能な社会をつくるために」	①民主主義を考えよう ②日本の格差問題 ③科学技術の発展 ④外国人との共生	a:民主主義、日本の格差問題、科学技術の発展、外国人との共生などの現実社会の諸課題について、課題解決に向けた必要な知識を理解している。 b:地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。 c:よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査	定期考査 授業ﾉｰﾄ	 授業ﾉｰﾄ レポート 課題 授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度